

水トラストニュース

2008.12 No.20



もくじ

8.3 第2回!素人のための林業体験塾	1
9.7「環境デーなごや」	3
名鉄広見線が危ない	4
なごや環境大学09講座	
「あの御嵩町で木曾川を学ぶ(仮題)」をやります	5
木曾の檜君の「そうだ京都へ行こう」を読んで	7
朝日東京プリンテック社の講演会	8

8.3 素人のための林業体験塾

8月3日、去年に続きバスツアーで「素人のための林業体験塾」を行いました。いつものメンバーに、金城大学や名古屋工業大学の学生など参加者は29人、バスの中で水トラストの説明、森林のクイズなどが行われ、山では枝打ち、間伐を体験、昼ご飯ではいろいろ語って楽しく過しました。以下は参加した名古屋工業大学の留学生2人の感想です。

My First Forest Experience

Nature tripping is one of the rare things that I would be able to do. Going to a forest is unimaginable for me because I had never been in a forest since birth.

It was August 03, 2008 when I had an unforgettable trip in my life here in Japan with Prof. Ichimura and his wife, Supria san and Kasuga san (my lab mates) and other volunteers. It took us more than an hour of travel from Nagoya station to the forest. We walked for a while to reach the base (storage). Even though summer had started that time, the air I breathed was so refreshing. Upon reaching the base, we started to do our mission for that day. The mission was to cut trees and branches as many as we can. We cut trees only those which are not in the proper place or location. At first, I was in a "branches group". It was fun to cut branches of taller trees with a smaller saw. I even used the smaller saw to cut smaller trees. I did not even notice that while cutting a smaller tree a falling branch of that tree hit my neck. It was a little painful but I did not bother it. After more than an hour of cutting branches, we had our lunch break. We gathered together and ate our pack lunch. It was nice to see tired but happy faces. In my mind, all the volunteers really enjoyed doing such activity with ease. After lunch, we began to do our mission again. This time the "branches group" became the "trees group". The role was to cut big and taller trees with the help of a chain saw and other tools like rope and small wedge. It was not easy to cut big and taller trees because it needs technique and extra care. The trees to be cut should not hit the other trees in proper location. We performed some sighting and estimation. After two trials, I managed to cut one big tree; one big tree for a one big achievement. How awesome it was. Time was running too fast so the mission ended after I achieved the fate for that day.

It was such a very momentous trip because it was my first forest experience. I consider it as an opportunity; an opportunity that I only dreamt of. But I had been in a forest in my dream many times. Now, I will no longer be wondering how it is to be in a forest because my dream is now fulfilled.

(Junie Jhon M. Vequizo, from Philippine, Research Student)

(訳)

間伐ボランティアに参加して

自然の中へ行くことは私には珍しい体験だった。生まれてから森へ行ったことがなかったので、森へ行くとはどんなことが想像できなかった。

8月3日は忘れられないツアーの日となった。市村教授、その妻、留学生のシュプリアさん、研究室の学生の春日さんと他のボランティア会員が参加した。名古屋から山までバスで1時間以上かかった。山に着いて、森の活動場所までしばらく歩いた。もう夏だったが、山の空気は気持ちよかった。山小屋のあるところに着くと間もなく、その日のボランティア活動開始だ。それは木を切ることに、枝打ち。間伐は密集しすぎて具合がわるい場所の木を切った。初めは枝打ち組みに入り、小さなこぎりで背の高い木の枝を落としていくのは楽しかった。細い木を切り倒しもした。枝打ちをしていて、枝打ちした枝が首にあたったことにも気づかなかった。少し痛かったが、気にならなかった。1時間ちょっと枝打ちをした後、昼休みになった。みんな集まって、昼ごはんを食べた。少し疲れているのに幸せそうな顔をしていて、その様子がとてもよかった。どの会員も本当にこの作業が好きで無理なく楽しくやっているのだと思った。昼食後、今度は間伐のグループで仕事をした。この作業はチェーンソーやロープやくさびなどの道具を使って、木を切り倒すことだった。これは技術と注意が必要で簡単なことではなかった。木は、他の木にあたらないように切り倒さなければならない。周りを見て倒れる方向の予想をつけて、1本の大きな木を何とか切ることができた。1本切るのでもたいした仕事だ。時間が過ぎるのはとても早く、その日の仕事は木を1本切ることで終わった。

初めての山仕事はとても思い出深いものとなった。今まで何度も夢見てきたが、今回夢が満たされ実際に山仕事を行い、山での活動がどういうものであるか知ることができた。(ジュニー、フィリピン人、研究生)

A tour in the Forest

On 3rd August 2008, we some guests were visiting "Water-source-forest" with "Mizu-trust" volunteer group. I was much excited, seeing the big forest with those lumber volumes of trees that have been selected for thinning. It was really very joyful day for me for the reason that it was my first experience inside the deep forest.

As I concerned Japan has a serious problem about forest environment like an abundance of the forest plantation due to densely planted forest trees, caused by poor management of plantation forests that were planted in the 1960s, resulting from a decline in the price of lumber in later years and poor demand for domestic lumber. Therefore the cutting of forest trees was suspended. Finally, the forest condition becomes unhealthy.

It was sunny day and from Nagoya Institute of Technology (Ichimura lab) me, Junie san and Kasago san together took part in the thinning and felling of trees with the volunteer group and enjoyed much. The volunteers were some old people in theirs sixties, who have more power than younger participants-wow! great!!! After thinning the trees I felt, I had participated to make a better environment for the next generation!

There is a small beautiful wooden house made by this volunteer group. We took lunch with different delicious fruits and Japanese dishes (new for me) inside the forest. I enjoyed much the wild smell around over there and collected two small pieces of thinned tree. All the members of this group accept us cordially and I took some exciting beautiful digital memories using my mobile camera. At the end of the day, when we were said "Chaionara"-that time I was really missing everyone's smiling face, love and warm company.

I am highly grateful and thankful to my sensei Professor. Masaya Ichimura and Kanako san to allow me to participate and achieve such a memorable day in my life.

Long live "Mizu-trust" volunteer group!



(Supria Chowdhury, from Bangladesh, PhD student)

(訳)

森へのツアー

8月3日、私たちは「水トラスト」の「水源の森」を訪ねました。枝打ちをした木の大きさにまずびっくり。こんな深い森の中で一日を過ごすのは初めての体験で、とても楽しく、エキサイティングでした。

日本では、60年代にたくさん木が植林されたものの、木材の値段が下がり国内材が売れなくなったことが原因で森林の手入れが十分なされず、その結果、森が過密で不健全な状態になったと聞いています。

3日はよく晴れた日で、名古屋工業大学の市村研究室からはJunieさん、春日さんも参加して、水トラストのメンバーの方々と枝打ち、間伐を楽しみました。六十歳台の方も参加されていましたが、若者よりもっとお元気でした。すばらしい！ 枝打ちをしたあとは、次の世代によりよい環境を残す手伝いのできたという充実感が残りました。



森の中には「水トラスト」の方々が作られたきれいな木の小屋があり、私たちはそこで昼食を食べました。おいしい果物やいままで食べたことのない日本の料理をいくつも味わうことができました。森の香りも存分に味わい、切った枝を二本持って帰りました。携帯のカメラでとった写真もいい記念になります。メンバーの方々はみな親切でした。一日が終わり、「さよなら」と言って別れて行くときの参加者の皆さんの笑顔、そして暖かい心が忘れられません。

この思い出深いツアーに誘ってくれた市村教授と加奈子さんに感謝します。どうかこれからも「水トラスト」がますます発展されますように。(スプリア、バングラデシュ人、博士課程)

9.7 「環境デーなごや」

9月7日、その日は朝から暑かった。テントは東を向いていたが、一日中かげることがなかった。かなり多くのブースがあって、いろいろな工夫がされていた。こちら企画の一つが伐採した木片に絵を描くということで、私は絵の具やパレットを買うことからわくわくし、この日を楽しみにしていた。でも暑さの上に、CO₂を歌にしたり踊りにしたりした企画で落ち着かず、人の多さも絵に集中力を維持できなくさせるものだった。前日まで描いていた作品を持っていったが、それ以上のものは描くことができなかった。



他のブースでも絵を描くことを企画していた。きれいに切りそろえ、やすりのかかった木片に飾りがあって、後は名前を書くだけとか、いろいろなキットがそろえられ、順番に張り合わせるとみな同じひとつの作品になるとか、みんな統一され、早くできるもの、だから作ったという満足感をあたえるもので、でも自由に絵を描くというのは発想が必要で、時間もかかり、かえって魅力なく見えた。私たちのブースはのこぎりで切る、焼印を押す、それでかなりの満足感を与えていたと思う。

私はもう1時間ぐらいで描くことをやめた。そして他のブースを見学、体験した。よかったと思ったのは「マイはしを作ろう」だ。四角く切られた2本の木をやすりで丸く整えて、使える箸にしていく。こんなに丸く、



きれいとがるのか、、、と自分でやってみて感心した。それに手縫いの箸袋がついて、毎日使うとなると、うれしいし、注意がいく。

それから、絵馬に環境のための目標や自分で何ができるか書くという企画。そのために多少考える。書けた、で終わりではない。その絵馬をもって、即席につくられた祭壇に上げて、お参りする。それでやっと意味のある絵馬となり、外に飾られる。偽の神棚でもなんだか意味ありげな絵馬になる。そのあとトイレトペーパーや紙容器のジュースまでつく。

今回の企画をみて、もしやるなら、短い時間で満足感を与えるもの、少しでも立ち止まり考えることをやらせる、毎日使える、見えるものをつくる事が大事だとわかった。そして人は無料であること、食べることなら、待つことができるというのもわかった。次回はそんな企画？をしてみたらいいのか。でも私にはむかない。

当たり前前のがたくさんあったが、それで「環境」と叫ぶのが都会の生活なのかな。

(市村 加奈子)

名鉄広見線が危ない！

御嵩町へ通うために乗っている名鉄広見線が風前の灯です。しばらく前までは名古屋から急行御嵩行きに乗って直行で行くことが出来ました。現在は、急行は新可児止まりで、そこからはワンマンカー往復運転している広見線に乗り換えなければなりません。その広見線が赤字を理由に廃線が検討されているらしいのです。すでに八百津線は廃止になってしまいました。八百津町の人たちは大変困っているそうです。

この問題は、名鉄という営利企業の採算の問題がクリアされないと難しい問題です。公益性の高い企業ということで、鉄道業は政府から様々な保護を受けているわけですから簡単に赤字だから即廃線というふうにはならないでしょうが、小泉改革以来の採算性重視の政策の中で、より現実味を帯びてきているのだと思います。

このことに対して、御嵩町では「名鉄広見線を守る会」が存続を求める署名運動を開始しました。「みたけ産廃を考える会」のメンバーも関わっています。そこからいただいた署名用紙で私も署名を集め始めました。こうした署名で事が動くわけではありませんが、多くの人々にこの問題を知ってもらうには有効な手段だと思います。

ただし、本当に広見線の存続を求めるならば、町をあげての運動を展開する必要があるでしょう。また、御嵩町行政として街づくりや町おこしの主要目的としてこの広見線問題をとらえ、施策の展開が必要だと思うのですが、まだ具体的な展開の話聞いてません。例えば、御嵩口付近に大規模な駐車場を建設して、御嵩町民だけでなく八百津町の人たちもパークアンドライドで名鉄を利用できるようにするとか、自転車の電車内持込を可能にして(三重県の三岐鉄道などで実現)、可児市などへの買い物客や通学生の便宜を図るなどといったことも考えられるでしょう。ふれあいバスの運行時間やコースとのリンクも工夫が要るでしょう。

署名の宛先が名鉄だけになっていますが、本当は岐阜県や日本政府にも宛てられるべきだと思います。赤字線の廃線によって、過疎に拍車がかかり、限界集落の消滅速度が加速される事態は日本各地で発生しています。こうした事態はこの国の根幹に関わる問題の一つです。とりあえずは署名を集めることに協力していますが、なんとか廃線をまづがれるために皆さんと知恵を絞りたいものです。もちろん、御嵩町民のおよび御嵩町の一層の自覚と奮起が望まれます。(糸土広)



なごや環境大学 09 講座

「あの御嵩町で木曾川を学ぶ(仮題)」をやります

「なごや環境大学」は発足して 5 年ほどになるでしょうか。大学といってもキャンパスがあるわけではありません。市民団体、個人、行政、企業などが環境に関わる各種講座を企画し、市内各地で展開されます。その数は年間 100 を越え、講座開催回数にすると 1000 回に近いようです。名古屋市が財政的支援(年間 2000 万円くらいかと思われます)をしながら実行委員会が運営します。とは言っても、実行委員会の委員長は名古屋市長ですし、運営委員会事務局は名古屋市職員があたっていますから、まさに名古屋市丸抱えの市民啓発事業と言えます。愛知万博が環境をコンセプトとして開催されたことから派生した事業の一部とも言えます。万博断固反対だった私にはやや居心地の悪い仕掛けでもあります。

具体的には、実行委員会が承認した企画講座を開催すると、チラシの印刷代や事務費、会場使用料、講師謝金などが助成されます。この講座を水トラストで企画してはどうかというアイデアが事務局会に出たことがありましたが、「そのうちにね・・・」ということで将来課題になっていました。それが急遽やることになったのは、御嵩町役場と名古屋市との話し合いの結果でした。

今年、御嵩町は総務省が募集した「環境モデル都市」に応募し、1 次選考は通りましたが最終的には落選しました。岐阜県庁から特別に職員を派遣してもらって参事とし、彼を中心に企画書を作成するという相当な力の入れようでした。この応募過程で、同じように応募した名古屋市(やはり落選)との上下流環境連携の可能性を打診したところ、とりあえず[なごや環境大学]で講座でもやりませんかという提案が名古屋市側から出されたのだそうです。実施主体として木曾川水トラストに依頼してはどうかとの話も出たそうです。

というわけで、御嵩町役場の鍵屋政策課長や堀参事から打診があり、企画の話し合いを数回持ちました。こちらから御嵩町役場に出向いて、御嵩町の市民グループとの話し合いも行いました。その中には、田中さん、籠橋さん、堀さんなど、産廃処分場反対運動の中で旧知の皆さんも入っていました。柳川さんが町長在職中にまとめた「御嵩町レッドデータブック」の調査を担当した方々でした。

企画書の提出は今月(11月)中です。まだ書いていませんが、数日中には書かないといけません。その概要をメモすると以下のようになります。

4月：講座のガイダンス、名古屋市内で座学として実施 (生命の川・木曾川の恵みで暮らす私たち、御嵩町産廃処分場計画事件、木曾川水トラストの発足経緯など・・・)



5月：水源の森および町有林にて間伐作業、定例の森仕事の日に重ねて1泊2日のフィールドワークです、現場までは御嵩町役場のバスが参加者を運んでくれます

6月：中仙道ウォーキング、御嵩町の歴史旧跡ハイキングと町おこしグループ（花寿司など）との交流、御嵩町役場のバスが途中支援します

6月：オオタカの生態と御嵩町の自然、オオタカ観察会の方を講師として名古屋市内で座学として行います。



10月：炭焼き、みたけの森の奥で炭を焼いているグループが講師となって、2週連続で炭焼き体験をします。

11月：小和沢をフィールドとして、自然観察会を行います、この企画については御嵩町内のグループで意見がまとまらず（寿和工業を刺激してはまずいとの慎重論があったそうです）水トラストの責任で行うことになりそうです。御嵩町役場のバスが現地まで参加者を運んでくれます。

2月：町有林の除伐、ナメコ菌打ちなど、美土里隊を講師として行います。このプログラムにも役場のバスが出ます。

合計で8回、延べ9日間の講座です。よほどのことがない限り、企画がけられることは無いと思います。これまでは間伐の実務にエネルギーの多くを割いてきました。これを機会に今後は、名古屋市民に木曾川上流を見るまなざしを持ってもらう活動にも力を入れていきたいと思います。同時に、御嵩町民とのこれまで以上の交流を図っていきたいと思います。この講座の開催にあたって、皆様のご協力をお願いします。チラシの配布とか、講座実施にあたっての受付作業や会計事務など各種の仕事があります。よろしくをお願いします。ご連絡は、水トラスト事務局あるいは大沼宛をお願いします。

なお、「なごや環境大学」の詳細については、下記WEBサイトをご覧ください。分厚い「なごや環境大学ガイドブック」が年間2回発行されています。企画が承認されれば、水トラストにもたくさん送られてきますし、市民局や区役所などでも入手できます。

(大沼 淳一)

なごや環境大学のウェブサイト：<http://www.n-kd.jp>、電子メール：jimu@n-kd.jp

事務局所在地：〒460-0008 名古屋市中区栄 1-23-13

伏見ライフプラザ 13F 名古屋市環境学習施設 エコパルなごや内

木曾の檜君の「そうだ京都へ行こう」

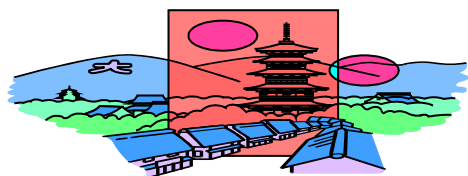
「銀閣建立」岩井三四二著 講談社 によると木曾谷の檜はやわらかく加工しやすい上に腐りにくく、丈夫で長持ち、木肌は美しく、香りはなんともいえない、、、とベタボメ。そして如何に京へ運ばれたかも述べています。

まず、春から秋に伐採され、葉をつけたままその場に放置、十分に乾いたら、斧で荒く角材にし、二、三間に切りそろえられる。その後、大水の心配のない冬に谷川から1本ずつ川流しにされ、木曾川本流へ、人夫によって1日に進む毎に網を張って止められながら下ってゆく。美濃国かにごおり可児郡にしこうりごうの錦織郷でいったん貯留される。(小和沢から車で



数分のところに今も関所の跡が有る)ここで筏に組まれて鵜沼、墨俣へ、ここから牧田川へ入り、ここをしばらくさかのぼって不破郡おさ表佐に至る。ここで陸に揚げられた材は、関が原を越え、近江国の琵琶湖東岸へ、再び筏を組んで西岸へ、坂本や大津で陸揚げされ、荷車で逢坂の関を越えて、やっと京都へ。いやはや大変な手間と労力(人力)だけに費用も莫大なので、現存する東求堂は当時、木曾谷から来たものだが、現存我々が銀閣寺と認識している観音殿は費用が足りず、同じ木曾檜でも、他の建て物の材を再利用したらしい。木曾は昼と夜、夏と冬の寒暖の差が激しく、寒い間檜は育たないので木目細かく、ねばり強く美しい材になるので、再利用も問題はなかったのだろう。思いたって「京都へ行こう」「銀閣寺へ行こう」という折には木曾谷の檜君のことも思い出してね。

(檜 三郎)



檜と小枝の交換文書

小枝ちゃんへ

パイナップル酵母のパン(11月のお昼に食べた小枝が作ったパン)は木曾檜君の美しさに勝るともおとらない美しさで美味しかったですよ。ありがとう。

檜君へ

え～、本当ですか。パイナップルのお酒を作って、そのときできた酵母で作ったパンです。ふくらみが足りなかったんですけど、既製品より密で、かんでいると味が出てくる気はします。いつも山のお昼が楽しみです。いろいろな人からいろいろな食べ物が持ちよられ、それにまつわる話も聞けます。まだいろいろやってみたいことあるので、試して見ます。また試食、感想をお願いします。

(小枝)

朝日東京プリンテック社の講演会

日曜日、今月(11月)の町有林の山仕事を昼で早退して、一人で西春へ向かいました。朝日東京プリンテックという会社の講演会に呼ばれたからです。この会社は、朝日新聞の印刷局が独立して別会社になったものだそうです。年に数回の新聞休刊日のうち、1日だけ全員出勤して講演会を聴き、終わったら懇親会をやるのだそうです。呼んでくれたのは、名古屋支社長の小沢さんという方で、「水源の里を守れ木曽川集会」で小生のプレゼン「木曽川の水がおいしいのは…」を聞いて、今年はこれでいこうと思ってくれたのだそうです。自分でもかって、森林の枝打ちボランティアに通ったことがあると言っていました。

会場には、思ったよりも若い印刷労働者が60名ほど。ほとんどが男性で、これはかって印刷労働が重たい鉛の板を運ぶなどの重労働だった名残だそうです。講演内容は、木曽川の水質や水利用のあらましと、御嵩町での巨大産廃処理場計画にまつわる経緯や水トラストの起こりや活動、下流域からの支援策、それに北名古屋市の水道の現状などです。1時間の講演でしたが、熱心に聴いてくれました。名鉄御嵩線存続署名も57人が署名してくれました。

講演が終わったあと、御嵩に住んでいるという20代の若者がよってきて話しかけてくれました。「そんなに高い水道料金を払っているとは知らなかった…森にも行ってみたいが、勤務が変則なので難しいかもしれない…」また別の若者が、「前は大阪に住んでいて、本当に水がまずかった…」と話しかけてきましたので、非番の日と第2土曜日が重なった時は是非森へ来てくださいと勧誘しておきました。一緒に名古屋に出て、中華料理店での懇親会まで参加して帰宅。なかなか長い1日でした。

(大沼淳一記)



編集後記

今年の助成金について

今年も国土緑化推進機構・緑の募金助成に応募して、来年8月までの事業に対して40万円の助成金をいただけることになりました。初年度は100万円、昨年度は90万円でしたから大幅にダウンです。高額な買い物は無理ですから、燃料費やチェンソーオイルなど、どうしても欠かせないものを優先して買しましょう。まあ身の丈にあった金額ともいえます。3年間以上はいただけないというルールになっていますから、3年目はこんなところなのでしょう。来年は別の助成金を考える必要があります。適当な情報があったら事務局まで教えてください。(大沼)

名古屋市立大学の単位に認定されるボランティアリストに載りました

最近、ボランティア活動に参加すると単位として認定されるという制度があちこちの大学で始まっています。縁あって名古屋市立大学のリストに掲載されることになりましたところ、早速11月の定例山仕事の日に、吉川君という学生が来てくれました。教官の森山先生ご夫妻も一緒でした。この日は、名古屋工業大学の大学院生である吉田君も来てくれて、にぎやかな作業になりました。やっぱり若者はいいですね。いるだけで雰囲気明るくなります。(大沼)

気軽に、楽しく山仕事に参加しませんか

とき： 毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所： 御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ）

集合時間： 午前10時（日曜日日帰りの方も同じ時間に中公民館にお越し下さい）

参加の方法： 電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

申し込み・お問い合わせ先： TEL 0574-64-0216(中村) FAX 052-779-4291 (大沼)

Email : mitake500npo@yahoo.co.jp

参加者の服装・持ち物： 長袖、長ズボン、作業の出来る履き物、弁当、水筒

（宿泊出来る方は： 寝袋、洗面セット、食器、ハシ）

宿泊先： ふれあいセンター（御嵩町上之郷字綱木）、日帰り参加も歓迎です

表紙の絵は早川しょうこ、中のイラストは市村かなこ

発行

特定非営利活動法人NPO みたけ・500万人の木曽川水トラスト
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付
TEL & FAX 052-682-4737
郵便振替00800-9-64810
URL <http://homepage3.nifty.com/mitake/>
e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp